

# 「下永谷で狐に騙された」

## 港南区の昔を語る座談会

港南歴史協議会は5月29日、港南図書館で「こうなんの昔を語る」と題した座談会を開催した。

これは区内の郷土史にまつわる古写真や歴史秘話な



満員の会場(上)と4月に出版された「こうなんの歴史アルバム」



どを収めた「こうなんの歴史アルバム」を同協議会が4月1日に出版したことを記念し、企画されたもの。

当日は同書に収録された「郷土史座談会」に登場している馬場久雄さんを座長に、区内出身の平井忠八さん、橋下賢明さん、山野井

正郎さん、北見繁男さん、寺田伊佐武さん、森喜八さんが演者として出席した。

座談会は、それぞれの演者が生まれ育った地域の生活や景観について紹介するという内容。このなかで平井さんは、第二次世界大戦中にB29が群れをなして上空を通過していった話を披露。当時の永野地区は暗闇で出会っても声だけで誰か分かるほど住民も少なく、爆撃の対象にはならなかったと話した。

このほか、橋下さんは野庭地区では多くの家が茶畑

をもっていたこと、北見さんは日下地区は山谷が多いため田んぼは少なく、野菜や花を売って生計を立てていた家庭が多かったこと、寺田さんは現在の清水橋付近に山から清水が流れていたこと、森さんは下永谷では狐が人を騙したという話が多かったことなど、さまざまなエピソードを交えながら昭和初期の区内の様子を振り返った。

会場には満員となる60人の観客が訪れる盛況ぶり、演者の発言を熱心にノートにとる人の姿も見られた。山野井さんは「温故知新の言葉にあるように、街の生い立ちを知ることが今後の街づくりには欠かせない」と話していた。